

隊 友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「14年間の支部長生活と
退任のご挨拶」

14年間に約150回(年間11回の理事役会)の理事役会を通じ、湘南支部長として日々多岐に亘る諸活動に対応できましたことに感謝申し上げます。反面、支部会員の減耗を食い止める的確な対応も見出せない中、理事役各位の交代も儘ならない状況となり一人三役の理事役の皆さん方に申し訳ない状況ともなりました。その解決策も見出せない中、加えて小生の家族の介護生活との両立が一段と厳しくなり、円滑な支部活動の実施が不安となり始めた時、中尾剛久会員の事を思い出しダメもとで支部長交代の話を持ち出した訳です。伝統にか神奈川県隊友会では各支部長は陸海空自退職時の階級が将補以下であり、元海自佐世保地方総監(海将)であった中尾会員を湘南支部長にと言う事は誠に口幅つたい事という認識はあり、湘南支部長をお願いすることは誠に常識外れと解されても仕方ない事という境地でありました。それでも支部長交代の依頼をしてから1か月後に返事があることとなりそれまで生きた心地ではなかった日々でした。もしだめなら支部長業務と家族の介護生活との2重生活的な状況は誠に困難となるからでありどのような対応があるのだろうかとの苦悩の毎日となり、支部活動への悪影響は計り知れない事となるからであります。しかしその日が来しました。口の中が力

ラカラの状態電話を掛けました。返事はOKでありました。一瞬本当かと返事を問い返し間違いなく支部長交代を受けると言う電話での返事に一瞬脱力感を感じたくらい有難い返事に感謝の言葉を述べた次第です。良くぞ快諾してもらえたものだと思えない境地でありました。元海将に湘南支部長を受けてもらえたことは、多分全国の隊友会支部では初めてではないだろうか。またこれが契機に支部長高齢化の中他の支部への好影響が生じるのではと思え今回の交代で何が変わるのだろうかと考えてみました。

先般、神奈川県隊友会理事役会で、支部長の任期延長というタイトルで、「県隊友会支部長任期は3期6年が原則、止むを得ない場合延長が認められる」となっており、県下9支部の支部長の内、6年目が1支部、8年目が1支部、9年目が1支部、12年目が1支部、13年目が1支部として14年目が1支部の湘南支部長との説明でありました。即ち小生は、県下で最長老の支部長であった訳です。

この支部長の高齢化について少し触れてみます。その第1は、何故そのように高齢化となるのかであろうか。理由は簡単であり、入会者が少ない、かつ隊友会としての会員数が毎年確実に減少している中、若い入会者が理事役という役をやりたがらないと言う事であろう。誠に残念な話であります。第2は、支部長の高齢化のため、新しい陸海空自

の退職者の情報が得られないと言ふことであり、理事役要員を掘り起こす情報が得られないことになりました。第3は、高齢化のため世の中の変化や新しい情報を得る能力、気力等が追いつかないことであろうと思っています。

今回の支部長交代で約19年若返ることとなり、このことは誠に重要であり必要な改革となろうと考えます。そして現役との繋がりが大きく各種の意思疎通が可能となると思います。第4は、支部長の20年弱も若返りすることは、理事役会そのものが若返り、その判断の速さや、的確性等が大きく期待されます。即ち理事役会の活性化そして湘南支部全体の活性化が期待されるということです。

今回の支部長交代は次の時代への大きなステップとなることは間違いないことであり湘南支部の大きな変化も生じるのではないかと期待されます。

これまで14年間の支部長という役職を終えるに当たり、隊友会ならではの多数の陸海空自OBの会員各位との交流そして理事役会、また多くの特別会員の皆さん方と各種の行事等を通じお世話になりましたこと、丁度海自を退職する時のような心境となりそうであり拙い支部長を良く支えてもらいましたことに厚く感謝申し上げます。そして中尾新支部長を中心に新しい湘南支部の活動に期待しています。各位のご活躍、ご健勝を祈念し支

部ニュース最後の投稿記事と致します。最後に、この場をお借りしまして支部長退任のご挨拶と致します。お世話になりました。

支部長 清崎忠紈

相模國三之宮 比々多神社

支部理事役 深澤 文晴

神奈川県伊勢原市三ノ宮に鎮座する旧相模国最古級の神社。旧社格は郷社で、現在では神奈川県神社庁による献幣使参向神社となっている。古くは「冠大明神」とも称した。

延長5年(927年)の『延喜式神名帳』に記載されている比々多神社(相模國の延喜式内社十三社の内の一社(小社))とされるが、後述のように論社も存在する。毎年5月5日に大磯町国府本郷の神揃山(かみそろいやま)で行われる旧相模國の伝統的な祭事、国府祭(こうのまち)に参加する相模五社の一つで同国三宮に当たる。所在地名の「三ノ宮」は当社にちなみ、古くより「三ノ宮さま」とも呼ばれている。

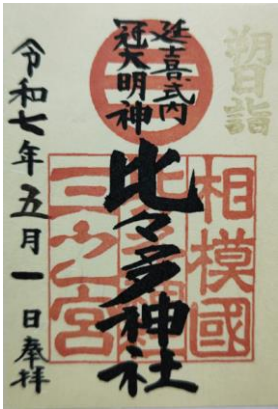
天保5年(1834年)に書かれた『比々多伝記』によれば、当社は神武天皇の天下平定の際に、人々を護るために建立されたとしている。『比々多神社 参拝の栞』によれば、これは神武天皇6年(紀元前655年)のことで、人々が古くから祭祀の行われていた当地を最良と選定し、大山を神体山とし豊国主尊を日本国霊として祀ったことを起源としている。

一方、境内および近隣から発掘

された遺跡遺物から、縄文時代中期の環状配石中にある立石が祭祀遺跡と推定されている。神社側は、当社の淵源は1万年以上前の縄文の原初的な山岳信仰にまで遡ると推定され、東日本最古級の神社となる可能性があるとしている。当社は大山の東南山麓に鎮座しているが、『日本の神々』神社と聖地「11 関東」においても、当初は大山を遥拝する宮だっただろうと考察している。

『比比多伝記』によれば、崇神天皇7年（紀元前91年）に神地神戸を寄せられ、垂仁天皇27年（紀元前3年）8月には神祇官が詔を受け弓矢を奉幣している。

『比々多神社参拝の葉』によれば、大化元年（645年）大酒解神と小酒解神の2柱を合祀し、その際「鶉瓶（うずらみか）」と呼ばれる須恵器が納められたのだという。持統天皇6年（692年）に国司布施朝臣色布智（ふせのあそんしこふち）が社殿を修復すると共に狛犬1対を奉納している。天平15年（743年）武内宿禰の裔孫である紀朝臣益磨（きのあそんますまろ）を初代宮司に迎えると共に、聖武天皇より莊園を賜った。天長9年（832年）には国司の橘朝臣峯嗣（たちばなのあそんみねつぐ）を勅使として相模国総社「冠大明神」の神号を淳和天皇より賜ったとされる。



主祭神

- ・豊斟淳尊（とよくむねのみこと）
- ・天明玉命（あめのあかるたまのみこと）
- ・稚日女尊（わかひるめのみこと）
- ・日本武尊（やまとたけるのみこと）
- ・相殿神（あいどのしん）
- ・大酒解神（おおさかとけのかみ）
- ・小酒解神（こさかとけのかみ）
- ・神奈川県重要文化財
- ・鶉甕（うずらみか）…昭和31年指定
- ・伊勢原市重要文化財
- ・狛犬一対…昭和31年指定

災害時のトイレットペーパー

支部理事役 鼓 達也

陸上自衛官は野外演習の際にトイレットペーパーを各自持つていく。トイレットペーパーを忘れると悲惨なのは言うまでもない。災害時に手ぶらで避難所に行く方は少ないと思うが、トイレットペーパーを備蓄品に入れておかないと避難先で困る可能性が高い。

防災時トイレの必要性は様々な場所で強調され備蓄している人も増えている。以前に排泄量やどれくらいのトイレパックを備蓄すればよいか記したことがあるが、トイレットペーパーの存在を忘れてはならない。

家庭でのトイレットペーパー使用量は購入タイミングなどで概ね消費量は把握されているのではないかと。しかし備蓄や災害時持ち出し品になるとどれくらい必要だろうか？日本トイレ協会によると、日本では1回のトイレットペーパー使用量は約80cmとされ、アメリカでは50cmだそう（国によっては水のみ使用）。更に小のとき平均使用量は66cm、大だと

146cmとされる。男女差は、女性の1日あたりの平均使用量は12.5m、男性は3.5mとされ、女性の方が使用量は多い。

日本ではオイルショックやコロナ過でトイレットペーパー不足を経験しており多少は自宅に備蓄があるかと思われるが、それが自身や家族にとつての適正量なのか考える必要がある。男性1人であれば65mトイレットペーパー11個で20日以上持つが、女性であれば5日しかもたないのだ。男性3.5m×○日×○人＋女性12.5m×○日×○人＝トイレットペーパー必要量○mでおおよその必要量が計算できるのぜひ計算してみてほしい。使用量には個人差や体調にもよるので、自身がどれくらい1回に使用しているのか、家族でどれくらいの頻度でトイレットペーパー1ロールが無くなるのか気にしてみると必要備蓄数や持ち出し数が算出される。

余談として、ペーパー類の持ち出し品にはジップロックなどの防水対応しておくことで湿気や水害などで持ち出した方がいいが避難先で使用できないという事態を予防できる。

令和7年度年会費納入者（順不同・敬称略）

湘南支部長（五月十六日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別法人会員

テクノブリッジ㈱、㈱櫻井興業、

特別会員

泉川博、尾上洋一、木村俊雄、中根

圭介、原博章、星野剛士、河野太郎、市川和広、大野直人、左奈田幸一、吉田清人、松澤弘海、松長泰幸、川内美喜男、臼井忠欣、加藤大嗣、塚本昌紀、吉田実、宮城覺映、飯島邦光、金子勇二、国松誠、原康二、

正会員

田中宏治、三澤征治、渡邊直、桜庭憲昭、其浦勇治、棚木実、濱口浩二、小林貞雄、常光康弘、横山安廣、相馬孝良、小見山雅、

終身（寄付者）

尾崎謙一、坂西厚隆、春日敏、高見巖、日高昭、堀井光男、青山元彦、岩崎政弘、清崎忠園、佐藤友昭、関克行、西村剛、平川幹雄、蛭田信次、高木幸夫、寺中哲夫、澤野憲二、塩川儒廣、福樂勲、深澤文晴、宮崎栄介、前田秀彦、吉富望、

新入会員のお知らせ（敬称略）

正会員

・二挺木 智也 元陸上自衛隊

「支部の予定」

- ・06/07（土）第3回支部理事役会
- ・06/18（水）6月号隊友紙発送
- ・07/05（土）第4回支部理事役会
- ・07/18（金）7月号隊友紙発送
- ・08/02（土）第5回支部理事役会
- ・08/18（月）8月号隊友紙発送
- ・09/14（土）第6回支部理事役会

編集後記

5月14日15時すぎ、愛知県犬山市入鹿池に航空自衛隊のT-4練習機が墜落し乗っていた隊員2人が行方不明になっています。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。